

◎ 防災教育講演会 7月12日(土)午後5時より 北部公民館大会議室 聴講者 151名

東北岩手県から、元釜石市消防防災課長の末永正志氏〔現消防庁・市町村災害対策支援アドバイザー〕を講師にお迎えして、『釜石の奇跡』を生んだ経緯・背景について講演をしていただきました。日々の学校防災教育を通じて、地域がまとまっていった成果・結果であることが報告されました。



チリ地震津波など、何度も大津波に見舞われた経験を持つ彼の地では、津波警報が発表されても避難しないことが常態化していた。「津波てんでんこ」など災害文化の伝承も途絶えがちで、今後の津波災害が懸念されていた。平成18年頃のことです。このような状況下で釜石市では、末永氏らが率先して学校教育の場を通じて、防災の必要性を、知識・技術・心構えの視点から教育の場で実践されたことが、地域を巻き込んでの防災意識向上につながったと考察されています。地震の知識は何となく知っている。防災訓練の場で多少の技術は身につけている。心構えの点では、頻りに毎学期2回ずつの訓練を通じて、日常の防災意識向上に努められたとのことでした。

【我々に投げかけられた課題】

自然災害が少ないといわれる我々の地域はどうでしょう。あの東日本大震災の時、我々はどんな行動をしたのでしょうか。『船酔いするような、いつもの地震と違うな』など、そしていずれ収まるだろうと、安気にしていました。阪神淡路や東日本大地震の知識はあるのにです。治まるだろう、安全だろう、という『危機意識』の欠如。正に平成18年当時の一部の釜石の方々と同じ状況です。彼の地は津波常襲地帯、この地は必ず発生する、南海トラフ巨大地震が懸念される地です。大人の知識や経験は、得てして先入観にとらわれやすい。時には純粋な子どもの感覚による部分を頼りに、大人を巻き込んでの意識向上につなげることが必要なのでは。

◎ 後ろを見て、自転車に乗りましょう？

安城市交通安全きらめき自転車大会

6月28日(土)錦町交通安全広場 参加9チーム 団体の部で総合2位、個人の部では男性3位、女性は1位と2位と好成績を収めました。当日の北部地区代表の『よかったところ』として、進路変更や一時停止の際の後方確認、安全確認が徹底していたことが、操縦技術とともに高評価につながったとのこと。

一般に高齢者は、後方の確認をせずに進路変更をする人が多く、重大な事故につながることも多いとか。

後期高齢者、前期高齢者、自転車に乗る全てのみなさん、自転車は後ろをよく見て、運転しましょう。

勿論、前もよく見てね。



8m スラローム。  
白山神社横の道路でペットボトルを並べての練習がまりました。  
8m 板乗りも難しかったです。

◎ お願い

- ・家庭ゴミは登録したステーションに出しましょう。無番号で別の箇所に出すことは、迷惑をかけます。
- ・ゴミステーション分布の偏り、箇所数の不足、一ヶ所あたり戸数の偏りなど、課題の検討開始します。

◎ 8月の予定

8月 1~3日〔金~日〕 子ども会七夕かざり  
2日〔土〕 避難訓練説明会  
11~15日〔月~金〕 事務所益休み  
13・14日〔水・木〕 盆踊り〔北小〕  
23・24日〔土・日〕 防災訓練〔北小〕

◎ 『AED 迷わず使う』 普通救命講習会開催

7月6日(日)午前 今村公会堂 受講者21名

今、いろいろな所で見かけるAEDですが、迷わず使うことができますか。必要のない人に電気ショックを与えてしまうのではないかと、不安を感じる人も少なくないと思います。

心肺停止と思われる人に遭遇したら、迷わずAED。『迷わず使う』は今の常識です。AEDは『治療の器具』であると同時に、ショックが必要かを判断してくれる『診断器具』でもあるのです。医者でない私たちが、心停止の判断を瞬時にすることはとても出来ません。横たわっている人の脈や呼吸を診るのは、自信が持てません。

『迷わず使う』本当の意味はここにあります。AED機器の使用方法は、学習すれば操作は簡単なものですし、AEDのアナウンスに従って操作すれば、診断指示をしてくれます。人が迷わなくてもいいのです。AED君に任せれば、いいのです。迷わず使う。

救急車を呼ぶ人、AEDを持ってくる人、それまでは人工呼吸をしながら到着を待つ。

我が町内会連合会では、毎年20名余の人がAED操作資格者として育てています。あなたも是非・・・



◎ 子ども会の資源回収 8月の予定〔収集順〕

松 8月 3日〔日〕  
わかば 8月 17日〔日〕  
松 8月 23日〔土〕  
星の子 8月 23日〔土〕  
わかば 8月 29日〔金〕  
あすなる・桜 次回に実施

子ども会の  
活動資金に  
ご協力を